

ロング決勝に3名進出!

多田宗弘

マウンテンバイクオリエンテーリング世界選手権大会 2009年8月10-15日

2009年8月8日~15日、イスラエルのテルアビブ近郊で第7回マウンテンバイクオリエンテーリング(MTB-0)世界選手権が開催された。

日本からは男子7名、女子1名が出場し、男子では過去初めて2名同時ロング予選通過、女子は宮内選手がロング決勝で21位に入るなど、健闘を見せた。

大会ページは
<http://www.nivut.org.il/mtbo>
(地図・ルート図も記載)

本大会の結果は以下の通り。

ロング予選(8月10日)

(通過ラインは男子20位、女子30位)

男子A

- | | | |
|------------------------|-----|-------|
| 1. Brun Pedersen Lasse | DEN | 54:01 |
| 20. 玉木 圭一 | JPN | 74:51 |
| 24. 足立 辰彦 | JPN | 81:02 |

男子B

- | | | |
|---------------------|-----|-------|
| 1. Gritsan Ruslan | RUS | 56:57 |
| 20. Daniel Marosffy | HUN | 69:40 |
| 22. 新 隆徳 | JPN | 76:55 |
| 24. 芝田 敏仁 | JPN | 78:05 |

男子C

- | | | |
|---------------------------|-----|-------|
| 1. Skovgaard Knudsen Erik | DEN | 54:06 |
| 18. 多田 宗弘 | JPN | 64:25 |
| 20. Soria David | ESP | 69:05 |
| 24. 名見耶 敏也 | JPN | 92:57 |

女子A

- | | | |
|--------------------|-----|-------|
| 1. Chernikh Ksenia | RUS | 61:06 |
| 13. 宮内 佐季子 | JPN | 73:49 |
| 20. Varotti Stella | ITA | 77:11 |

(女子 B は省略)



名見耶敏也(大会ページより)

男子は今年のポーランド大会で初め

てロング予選を通過(救済措置に救われた面もあったが)したのに続き、今年は玉木、多田の2名が予選を通過した。日本人男子が予選を2名同時通過したのは初めて。女子も宮内が高いパフォーマンスを発揮し、余裕の通過。通過者の中でも中段グループに付けた。男女合わせて3名決勝に残ったのも初の快挙であった。

ミドル決勝(8月11日)

ミドル・スプリントは予選が無く、いきなり決勝となる(予選があるのはロングだけ)

男子決勝 76名出走

- | | | |
|------------------------|-----|-------|
| 1. Gasbjerg Torbjorn | DEN | 56:27 |
| 2. Hradil Jiri | CZE | 57:09 |
| 3. Brun Pedersen Lasse | DEN | 57:17 |
| 52. 多田 宗弘 | | 72:38 |
| 66. 新 隆徳 | | 84:29 |
| 68. 芝田 敏仁 | | 87:11 |
| 71. 玉木 圭一 | | 93:01 |
| 72. 足立 辰彦 | | 94:51 |
| 73. 名見耶 敏也 | | 97:09 |

女子決勝 52名出走

- | | | |
|------------------------|-----|-------|
| 1. Hara Marika | FIN | 52:22 |
| 2. Gigon Michaela | AUT | 53:23 |
| 3. Schaffner Christine | SUI | 53:44 |
| 37. 宮内 佐季子 | | 66:30 |

岩場のシングルトラック(フットOの小径ほどの幅)が多く、日本勢は苦戦を強いられた。各選手ミスも多く、厳しい結果となった。



宮内佐季子(大会ページより)



インタビューを受ける新隆徳(写真右)と羽鳥和重(大会カメラマン撮影)

リレー(8月13日)

リレーは1国2チーム出場、先にゴールしたチームの方のみ順位がつく。

男子 出走16国、完走15国

- | | |
|-------------------|--------|
| 1. ロシア | 124:26 |
| 2. チェコ | 125:13 |
| 3. フィンランド | 125:43 |
| 15. 日本(多田-玉木-新) | 177:59 |
| ** 日本B(芝田-足立-名見耶) | |

リレーは昨年まで2年連続で最下位圏内を脱出、今回はさらに上を目指したが・・・

1走多田が転倒(右肩打撲)、フロントタイヤバンクのアクシデントに見舞われ、大きく出遅れた。2走玉木、3走新ががんばったものの、1走の出遅れが大きく響き、約5年ぶりの完走チーム中最下位に終わった。

スプリント(8月14日)

男子決勝 出走64名

- | | | |
|------------------------|-----|-------|
| 1. Jackson Adrian | AUS | 23:19 |
| 2. Brun Pedersen Lasse | DEN | 23:30 |
| 3. Gritcan Ruslan | RUS | 23:56 |
| 48. 多田 宗弘 | | 32:00 |
| 53. 新 隆徳 | | 35:51 |
| 55. 玉木 圭一 | | 39:00 |
| 57. 柴田 敏仁 | | 40:02 |

女子決勝 出走45名

- | | | |
|-------------------|-----|-------|
| 1. Bajtosova Hana | SVK | 22:37 |
| 2. Hara Marika | FIN | 23:00 |
| 3. Gigon Michaela | AUT | 23:34 |
| 23. 宮内 佐季子 | | 27:23 |

公園内のくねくね曲がる舗装道路を中心に、かなりトリッキーなコースが組まれていた。

宮内は最終コントロール直前までは16位を走っていたのだが、最終コントロールで1分以上のミス。それでも23位と堂々たる成績を収めた。



玉木圭一。ロング決勝に進出

ロング決勝(8月15日)

男子 出走60名

1. Jackson Adrian AUS 1:32:41
2. Gritsan Ruslan RUS 1:35:25
3. Barthelemy Matthieu FRA 1:36:23
46. 多田 宗弘 1:59:26
55. 玉木 圭一 2:23:43

女子 出走47名

1. Schaffner Christine SUI 1:31:11
2. Zinkl Sonja AUT 1:33:00
3. Bajtosova Hana SVK 1:33:07
21. 宮内 佐季子 1:45:20

ロング決勝は、地図縮尺 1/20,000、等高線間隔 10m ということから分かります。非常に高低差が激しいトレイルでのルートチョイス勝負となった。

男子では多田が 46 位と健闘、昨年の 58 位からさらに順位を伸ばした。

女子は宮内が 21 位。これは MTB-0 では文句なしで過去最高の結果だった。(しかも宮内は大きなミス(3~4分)を1つしており、それが無ければ 20 位以内に入っていた計算になる)

大会全体を振り返って

ロング予選の 3 人同時通過は初の快挙。決勝でも宮内が女子 21 位、多田が男子 46 位に入るなど、上位を伺える位置に上がってきている。それに比べるとミドル・スプリント・リレーは厳しい結果に見えるが、悲観する必要はないと考える。今年は例年に比較して中堅国・下位国の参加が少なかった。このため日本が相対的に下位に沈んでいるように見えているだけだ。

男子は、トップを含め全体のレベルが数年前に比べて格段に進歩している。多田が「昨年より 5~10%速くなった」と豪語して本大会に臨んだが、結果が昨年と同程度だったことから、世界のレベルも同様のスピードで進化しているのではないかとと思われる。

一方女子は、男子ほどの急激な進化はまだ見られない。しかし急激に進化するのは時間の問題だろう。女子選手は、今の内に参戦し、今の内にがんばれば、世界で一桁順位を獲得するのも夢ではない。(そこのあなた、いかがでしょう???)



足立辰彦(大会ページより)



多田宗弘(大会ページより)

今後、日本が速くなるには

世界に追いつくためには、あるいは世界に置いて行かれないようにするには、日本でももっと MTB-0 が出来る環境を整える必要がある。しかし、日本では MTB-0 が出来る環境がほとんど無いのが現状である。

まず、ヒトがいない。代表選考会を、代表選手自らが主催しているような現状である(今年の選考会運営は多田が中心になって実施)。選手選考自体、「手を挙げれば代表になれる」状態に近い。(徐々に「希望したのに出場できない」という環境になりつつあるが)

ヒトがいないので、モノが揃わない。「モノ」とは「MTB-0 が出来る環境」である。まず、MTB-0 用の地図がほとんど無い。仮に地図があっても、使えるとは限らない。「MTB は山道に与えるダメージが大きい」という先入観があり、また最近の自転車ブームで勝手に山に入る人が多数出現、東京近郊のトレイルが傷んでいる、という問題がある。このため、東京近郊できちんと渉外しようとする「入ってくれるな」と言われてしまう。「人様の土地を使わせて頂いている」というオリエンテーリングの大前提を考えると、そう言われれば引き下がってあきらめるしかない。

このため、MTB-0 用の地図があっても実際に MTB-0 を出来るところは、日本では現在 1~2 箇所しかない。今年の日本代表チームも練習場所の確保・練習環境の整備に四苦八苦した。

こういった状況を打破すれば、きっと日本は今以上に速くなるだろう。

とりあえず MTB-0 用の地図を作るところから・・・だろうか。(既存の 0-Map があれば、2~3 日あれば作成可能なのだが・・・)

(多田 宗弘)



日本代表メンバー。

上段：左から芝田、玉木、足立、名児耶、多田。下段：左から羽鳥、新、宮内

「マウンテンバイクオリエンテーリングってそもそもなんですか？」という質問が多数(?)寄せられているので、一体どんなものか、ということを中心に。

MTB-Oとは？

マウンテンバイクオリエンテーリング(以下、MTB-O)とは、その名の通りマウンテンバイクに乗って行うオリエンテーリングです。フットオリエンテーリング(以下、フットO)との一番の違いは『走って良いのは道だけ』という点です。たまにローカルルールで「どこを走っても良い」という事もありますが、その場合も道を通った方が

速いケースがほとんどです。

MTB-Oの魅力

MTB-Oでは、ルートチョイスがフットOよりもはるかに多彩です。登り、下り、路面状況などでフットでは考えられないほど出せるスピードが変わり、かつトップスピードがフットOの倍以上速いので、フットOではあり得ないような遠回りルートがベストルートになることがよくあります。

また、MTBに乗っているため、地図読みが出来る場所が限られます。下り坂では止まらない限り全く読めません。しかしトップスピードが速いため、一旦止まるだけで相当のタイムロスになります。このため、地図を読む回数をいかに減らすか、どこで地図を読むか、という要素が、フットOよりもシビアになっています。そして、地図を読む回数を減らすと、その分だけ考えていたルートをトレースすることが難しくなります。

一方、コントロール位置は全て道の上なので、アタックはフットOほど難しくは無いですが、スピードが出ていますので簡単でも無いです。(フットOのスプリント競技をイメージしていただければ良いかと思います)。

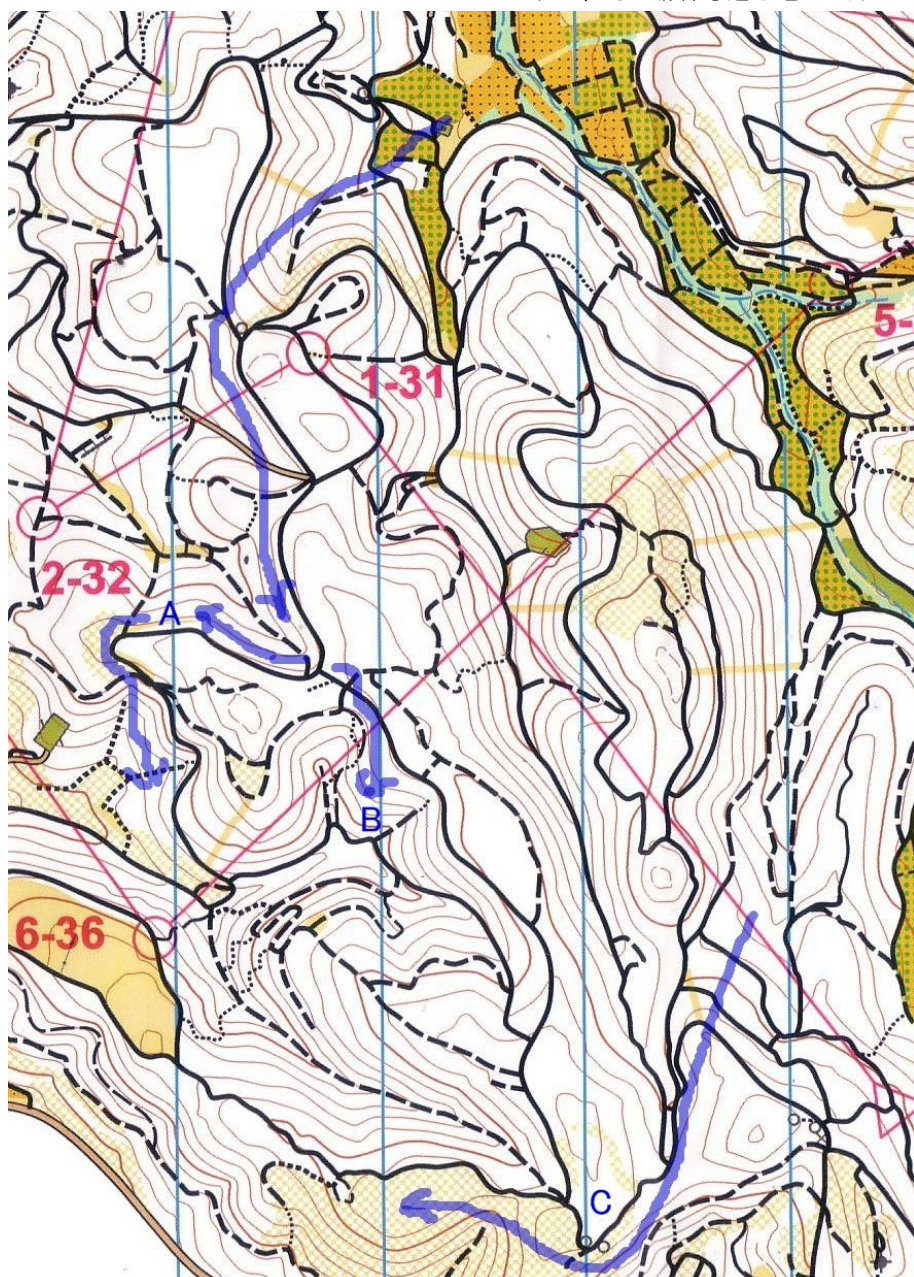
MTB-Oのスプリントになると、移動スピードが速い+地図が読める時間・場所が限られるので、フットOよりも展開が速く感じられます(要するに忙しいです)。スリリングさは、フットOのスプリント以上です。

一緒に世界を目指しましょう

「難しい地図は苦手だけど、簡単な地図ならあまり地図を見ないでスピードを上げて走れる」というタイプの方は、フットOよりもいい成績が出せると思います。(筆者自身もこのタイプです)

女子の場合、先ほどの大会報告にも書いた通り、まだ世界のレベルがそれほど高くないので、今の内に参戦すれば、世界で良い結果を残すチャンスがあります。もっとがんばれば、世界のトップ選手として居座ることも夢ではありません。

興味のある方はお声掛けください。
(多田宗弘)



2009 世界選手権・男子ロング決勝のコース。(縮尺 1:20,000、等高線間隔 10m)

5→6のルートチョイスで、AルートとBルートは、Bルートの方が明らかに距離が短いですが、タイムはAとほぼ同じ。ちなみにトップラップはCルートだった。
△→1もいろいろなルートがある。先ほどのC地点を通るルートも、登りが少ないので立派な選択肢となっている。(筆者は△→1でCを通るルートを選択)